



# R

## SANtricity commands

NetApp  
June 17, 2025

# 目次

R	1
ボリュームコピーの再コピー - SANtricity CLI	1
サポートされているアレイ	1
ロール	1
コンテキスト (Context)	1
構文	1
パラメータ	1
注:	2
最小ファームウェアレベル	2
無効になったドライブポートを回復する - SANtricity CLI	2
サポートされているアレイ	2
ロール	3
構文	3
例	3
SAS ポートの誤配線を修復する - SANtricity CLI	3
サポートされているアレイ	3
ロール	3
コンテキスト (Context)	3
構文	3
パラメータ	4
注:	4
最小ファームウェアレベル	4
RAIDボリュームの回復 - SANtricity CLI	4
サポートされているアレイ	5
ロール	5
コンテキスト (Context)	5
構文	5
パラメータ	5
注:	7
ストレージ容量を事前に割り当てます	8
セグメントサイズ	8
キャッシュ読み取りプリフェッチ	9
最小ファームウェアレベル	9
同期ミラーリングリポジトリボリュームの再作成 - SANtricity CLI	9
サポートされているアレイ	9
ロール	9
コンテキスト (Context)	9
構文 (ユーザ定義のドライブ)	10
構文 (ユーザ定義のボリュームグループ)	10

構文（ユーザ定義のドライブ数）	10
パラメータ	10
注：	13
Data Assurance管理	13
最小ファームウェアレベル	14
外部セキュリティキーの再作成 - SANtricity CLI	14
サポートされているアレイ	14
ロール	14
コンテキスト（Context）	14
構文	14
パラメータ	15
注：	15
最小ファームウェアレベル	15
ディスクプールの容量を減らす - SANtricity CLI	16
サポートされているアレイ	16
ロール	16
コンテキスト（Context）	16
構文	16
パラメータ	16
注：	17
最小ファームウェアレベル	18
アレイラベルの削除 - SANtricity CLI	18
サポートされているアレイ	18
構文	18
パラメータ	18
最小ファームウェアレベル	18
非同期ミラーグループから不完全な非同期ミラーペアを削除する - SANtricity CLI	18
サポートされているアレイ	18
ロール	18
コンテキスト（Context）	19
構文	19
パラメータ	19
最小ファームウェアレベル	19
SSD キャッシュからドライブを削除する - SANtricity CLI	19
サポートされているアレイ	19
ロール	20
構文	20
パラメータ	20
注：	20
最小ファームウェアレベル	20
ボリュームLUNマッピングの削除 - SANtricity CLI	21

サポートされているアレイ	21
ロール	21
構文	21
複数ボリュームのLUN / NSIDマッピングからLUN / NSIDマッピングを削除するための構文	21
パラメータ	21
注：	22
最小ファームウェアレベル	23
整合性グループからメンバーボリュームを削除する - SANtricity CLI	23
サポートされているアレイ	23
ロール	23
コンテキスト (Context)	23
構文	23
パラメータ	23
最小ファームウェアレベル	24
ストレージアレイディレクトリサーバの役割マッピングを削除する - SANtricity CLI	24
サポートされているアレイ	24
ロール	24
構文	24
パラメータ	24
例	24
同期ミラーリングの削除 - SANtricity CLI	25
サポートされているアレイ	25
ロール	25
コンテキスト (Context)	25
構文	25
パラメータ	25
最小ファームウェアレベル	26
非同期ミラーグループからボリュームを削除する - SANtricity CLI	26
サポートされているアレイ	26
ロール	26
コンテキスト (Context)	26
構文	27
パラメータ	27
最小ファームウェアレベル	27
ボリュームコピーの削除 - SANtricity CLI	27
サポートされているアレイ	27
ロール	27
コンテキスト (Context)	27
構文	28
パラメータ	28
最小ファームウェアレベル	28

SSDキャッシュの名前変更 - SANtricity CLI	28
サポートされているアレイ	28
ロール	28
構文	29
パラメータ	29
最小ファームウェアレベル	29
データパリティの修復 - SANtricity CLI	29
サポートされているアレイ	29
ロール	29
コンテキスト (Context)	29
構文	30
パラメータ	30
最小ファームウェアレベル	31
ボリュームパリティの修復 - SANtricity CLI	31
サポートされているアレイ	31
ロール	31
コンテキスト (Context)	31
構文	31
パラメータ	31
最小ファームウェアレベル	32
ドライブの交換 - SANtricity CLI	32
サポートされているアレイ	32
ロール	32
コンテキスト (Context)	32
構文	33
パラメータ	33
注：	33
最小ファームウェアレベル	34
インストールされた署名済み証明書をリセットする - SANtricity CLI	34
サポートされているアレイ	34
ロール	34
構文	34
パラメータ	34
例	34
最小ファームウェアレベル	35
コントローラのリセット - SANtricity CLI	35
サポートされているアレイ	35
ロール	35
コンテキスト (Context)	35
構文	35
パラメータ	35

注： .....	36
最小ファームウェアレベル .....	36
ドライブのリセット - SANtricity CLI .....	36
サポートされているアレイ .....	36
ロール .....	36
コンテキスト (Context) .....	36
構文 .....	37
パラメータ .....	37
注： .....	37
最小ファームウェアレベル .....	38
iSCSI IPアドレスのリセット - SANtricity CLI .....	38
サポートされているアレイ .....	38
ロール .....	38
コンテキスト (Context) .....	38
構文 .....	38
パラメータ .....	39
最小ファームウェアレベル .....	39
非同期ミラーグループの統計をリセットする - SANtricity CLI .....	39
サポートされているアレイ .....	39
ロール .....	39
構文 .....	39
パラメータ .....	40
注： .....	40
最小ファームウェアレベル .....	41
AutoSupport メッセージ収集スケジュールをリセットする - SANtricity CLI .....	41
サポートされているアレイ .....	41
ロール .....	41
コンテキスト (Context) .....	41
構文 .....	41
パラメータ .....	41
例 .....	41
検証 .....	42
最小ファームウェアレベル .....	42
ストレージアレイ診断データをリセットする - SANtricity CLI .....	42
サポートされているアレイ .....	42
ロール .....	42
コンテキスト (Context) .....	42
構文 .....	42
パラメータ .....	42
最小ファームウェアレベル .....	42
ストレージアレイのホストポート統計のベースラインをリセットする - SANtricity CLI .....	43

サポートされているアレ	43
ロール	43
コンテキスト (Context)	43
構文	43
パラメータ	43
最小ファームウェアレベル	43
ストレージアレのInfiniBand統計ベースラインをリセットする - SANtricity CLI	43
サポートされているアレ	44
ロール	44
構文	44
パラメータ	44
注:	44
最小ファームウェアレベル	44
ストレージアレの iSCSI ベースラインをリセットする - SANtricity CLI	44
サポートされているアレ	44
ロール	45
構文	45
パラメータ	45
注:	45
最小ファームウェアレベル	45
ストレージアレの iSER ベースラインをリセットする - SANtricity CLI	45
サポートされているアレ	45
ロール	45
構文	46
パラメータ	46
注:	46
最小ファームウェアレベル	46
ストレージアレの RLS ベースラインをリセットする - SANtricity CLI	46
サポートされているアレ	46
ロール	46
構文	46
パラメータ	47
最小ファームウェアレベル	47
ストレージアレの SAS PHY ベースラインをリセットする - SANtricity CLI	47
サポートされているアレ	47
ロール	47
コンテキスト (Context)	47
構文	47
パラメータ	47
最小ファームウェアレベル	48
ストレージアレの SOC ベースラインをリセットする - SANtricity CLI	48

サポートされているアレ	48
ロール	48
コンテキスト (Context)	48
構文	48
パラメータ	48
最小ファームウェアレベル	48
ストレージアレのボリューム配分をリセットする - SANtricity CLI	48
サポートされているアレ	49
ロール	49
構文	49
パラメータ	49
注：	49
最小ファームウェアレベル	49
非同期ミラーグループの再開 - SANtricity CLI	49
サポートされているアレ	49
ロール	49
コンテキスト (Context)	50
構文	50
パラメータ	50
最小ファームウェアレベル	50
整合性グループスナップショットボリュームの再開 - SANtricity CLI	50
サポートされているアレ	50
ロール	51
構文	51
パラメータ	51
注：	51
最小ファームウェアレベル	52
スナップショットイメージのロールバックを再開する - SANtricity CLI	52
サポートされているアレ	52
ロール	52
コンテキスト (Context)	52
構文	52
パラメータ	52
注：	53
最小ファームウェアレベル	53
スナップショットボリュームの再開 - SANtricity CLI	53
サポートされているアレ	54
ロール	54
構文	54
パラメータ	54
注：	55

最小ファームウェアレベル .....	55
SSDキャッシュを再開 - SANtricity CLI .....	55
サポートされているアレイ .....	55
ロール .....	55
構文 .....	55
パラメータ .....	55
最小ファームウェアレベル .....	56
同期ミラーリングの再開 - SANtricity CLI .....	56
サポートされているアレイ .....	56
ロール .....	56
コンテキスト (Context) .....	56
構文 .....	56
パラメータ .....	56
注: .....	57
最小ファームウェアレベル .....	57
ドライブの復活 - SANtricity CLI .....	57
サポートされているアレイ .....	58
ロール .....	58
コンテキスト (Context) .....	58
構文 .....	58
パラメータ .....	58
注: .....	58
最小ファームウェアレベル .....	59
スナップショットグループの復活 - SANtricity CLI .....	59
サポートされているアレイ .....	59
ロール .....	59
コンテキスト (Context) .....	59
構文 .....	59
パラメータ .....	59
注: .....	59
最小ファームウェアレベル .....	60
スナップショットボリュームの復活 - SANtricity CLI .....	60
サポートされているアレイ .....	60
ロール .....	60
コンテキスト (Context) .....	60
構文 .....	60
パラメータ .....	60
注: .....	61
最小ファームウェアレベル .....	61
ボリュームグループの復活 - SANtricity CLI .....	61
サポートされているアレイ .....	61

ロール .....	61
コンテキスト (Context) .....	61
構文 .....	61
パラメータ .....	61
最小ファームウェアレベル .....	62

# R

## ボリュームコピーの再コピー - SANtricity CLI

recopy VolumeCopy targetコマンドは'既存のボリューム・コピー・ペアを使用してボリューム・コピー操作を再開します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)



ファームウェア・バージョン7.83では'copyType=(online | offline)パラメータは使用されなくなりました

このコマンドは、Snapshotイメージのボリュームコピーペアに対して有効です。

このコマンドは、Snapshotイメージボリュームを使用して作成したボリュームコピーペアと連携します。



ボリュームコピー処理を開始すると、ターゲットボリューム上の既存のデータはすべて上書きされ、ターゲットボリュームがホストに対して読み取り専用になり、ターゲットボリュームに関連付けられているSnapshotイメージボリュームがある場合はすべて使用が停止されます。以前にターゲットボリュームをコピーとして使用したことがある場合は、データが不要になっていること、またはデータをバックアップ済みであることを確認してください。

### 構文

```
recopy volumeCopy target [targetName]
[source [sourceName]]
[copyPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[targetReadOnlyEnabled=(TRUE | FALSE)]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「target」と入力します	ボリュームコピー処理を再開するターゲットボリュームの名前。ターゲットボリューム名は角カッコ（[]）で囲みます。ターゲットボリューム名が特殊文字を含んでいる場合は、ターゲットボリューム名を二重引用符（"）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「source」を参照してください	ボリュームコピー処理を再開するソースボリュームの名前。ソースボリューム名は角カッコ（[]）で囲みます。ソースボリューム名に特殊文字が含まれている場合は、ソースボリューム名を二重引用符（"）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「copyPriority」	ホストのI/Oアクティビティに対するボリュームコピーの優先度。有効な値は'highest'high'high'medium'low'low'lowest'です
targetReadOnlyEnabled	ターゲットボリュームへの書き込みを可能にするか、ターゲットボリュームからの読み取りのみを可能にするかを選択する設定。ターゲット・ボリュームに書き込むには'このパラメータをFALSEに設定しますターゲット・ボリュームに書き込みできないようにするには'このパラメータをTRUEに設定します

## 注：

コピー優先度は、ボリュームコピーペアのソースボリュームとターゲットボリュームの間のデータのコピーに使用されるシステムリソースの量を定義します。最高の優先度レベルを選択すると、ほとんどのシステムリソースを使用してボリュームのコピーが実行されるため、ホストのデータ転送パフォーマンスが低下します。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

7.83で'copyType=(online | offline)パラメータが削除されました

## 無効になったドライブポートを回復する - SANtricity CLI

recover disabled drivePortsコマンドは'無効なドライブ・ポートをリカバリします

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE2800、E5700、EF600、またはEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
recover disabled drivePorts;
```

## 例

```
recover disabled drivePorts;
```

# SAS ポートの誤配線を修復する - SANtricity CLI

「recover sasPortの誤配線」コマンドは、誤配線状態からリカバリするための修正措置が実行されたことをコントローラに通知します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

誤配線が検出されたために無効になったSASポートが、コントローラによって再有効化されます。SASの誤配線状態を修正してからこのコマンドを実行してください。

SASの誤配線状態とは次のいずれかです。

- 無効なSASトポロジです
- コントローラのホストポートから拡張トレイへの接続
- イニシエータからドライブトポロジへの接続
- ESMの誤配線

## 構文

```
recover sasPort miswire
```

## パラメータ

なし

## 注：

誤配線状態が検出されると、コントローラファームウェアは次の内容を報告します。

- 誤配線状態が存在することを示す重大MELイベント
- 「Needs attention」状態です
- 誤配線を示すリカバリアクション

また、誤配線が原因でアクセスパスが1つしかないドライブ、ESM、およびトレイ（ストレージアレイの下段のトレイなど）についても、「冗長性が失われました」という情報が報告されます。冗長性の損失情報はSASトポロジに固有のものではありません。

SASポートの誤配線に関連するイベント通知を次に示します。

- SASの誤配線が検出されました
- HBAがドライブチャンネルに接続されています
- ドライブチャンネルはクロス配線されています

誤配線状態の際、SASドメインの整合性を保護するためにコントローラが1つ以上のSASポートを無効にする場合は、次の手順に従ってこの状態からリカバリしてください。

1. 間違った場所にあるケーブルを特定して取り外します。最後に新しいケーブルを取り付ける作業を行った場合は、これが最も可能性の高い方法です。そうでない場合は、ストレージアレイの一部ではないデバイスに接続されているケーブルまたはチャンネル間で接続されているケーブルを探してください。リカバリイベントでは、誤配線が検出されたチャンネル、および場合によってはトレイが報告されます
2. ケーブルを取り外した後、またはケーブルを正しい場所に移動した後、「recover sasPort eぶ る」コマンドを実行します。誤配線が検出されたときに無効になったSASポートが、コントローラによって再有効化されます。
3. 誤配線が原因で取り外したケーブルまたは正しい場所に移動したケーブルが無効にしたポートへの唯一のアクセスをコントローラに提供していた場合、コントローラは無効にしたSASポートを再有効化できません。リカバリを完了するには、ストレージアレイ内のトレイの電源を再投入する必要があります。

## 最小ファームウェアレベル

8.10で

## RAIDボリュームの回復 - SANtricity CLI

recover volumeコマンドは'ドライブ上のユーザー・データ領域を初期化せずに'指定されたプロパティを持つRAIDボリュームを作成します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

パラメータ値は、ストレージアレイのリカバリプロファイルデータファイル（「recovery-profile.csv」）から取得されます。このコマンドを使用すると、既存のボリュームグループにリカバリボリュームを作成したり、新しいボリュームグループを作成したりできます。



このコマンドはコマンドラインからのみ実行できます。GUIスクリプトエディタからこのコマンドを実行することはできません。ストレージ管理GUIを使用してボリュームをリカバリすることはできません。



このコマンドをDynamic Disk Pool (DDP) ボリュームに対して使用することはできません。

## 構文

```
recover volume
(drive=(<trayID>, [<drawerID>,]<slotID>)) |
(drives=<trayID1>,pass:quotes[ [<drawerID1>,]<slotID1 ...
<drawerIDn,</em>]<slotIDn</em>)) |
volumeGroup=<volumeGroupName>))
[newVolumeGroup=<volumeGroupName>]
userLabel="<volumeName>" volumeWWN="<volumeWWN>"
capacity=<volumeCapacity>
offset=<offsetValue>
raidLevel=(0 | 1 | 3 | 5 | 6)
segmentSize=<segmentSizeValue>
dssPreAllocate=(TRUE | FALSE)
SSID=<subsystemVolumeID>
[owner=(a|b)]
[cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)]
[dataAssurance=(none | enabled)]
[hostUnmapEnabled=(TRUE | FALSE)]
[blockSize=blockSizeValue]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>リカバリ対象のボリュームを追加するボリュームグループに割り当てるドライブ。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>
「volumeGroup」のように指定します	<p>ボリュームを作成する既存のボリュームグループの名前。（ストレージレイ内のボリュームグループの名前を決定するには、「show storageArray profile」コマンドを実行します）。</p>
「newVolumeGroup」と入力します	<p>新しいボリュームグループに付ける名前。新しいボリュームグループ名は二重引用符 (") で囲みます。</p>
「userLabel」のように入力します	<p>リカバリするボリュームの名前。ユーザーラベルには、次の2つの部分があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ボリューム名。ボリューム名は二重引用符 (") で囲みます。</li> <li>• ボリュームのWorld Wide Name (「volumeWWN」)。16バイトの識別子 (60080E500017B4320000000049887D77など) で指定します。識別子は二重引用符 (") で囲みます。</li> </ul> <p>ボリューム名とボリュームのWorld Wide Nameの両方を入力する必要があります。最初にボリューム名を入力する必要があります。例：</p> <pre>userLabel="engdata" volumeWWN=60080E500017B4320000000049887D77</pre>

パラメータ	説明
「容量」	ストレージアレイに追加するボリュームのサイズ。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます
「offset」	ボリュームグループの先頭から参照されるボリュームの先頭までのブロックの数。
raidLevel	ドライブが含まれているボリュームグループのRAIDレベル。有効な値は'0'1'3'5'または'6'です
「segmentSize」のように表示されます	コントローラがボリュームグループ内の1つのドライブに書き込めるデータ量 (KB) を指定します。有効な値は'8'16'32'64'128'です 「256」または「512」。
dssPreAllocate	将来的なセグメントサイズの変更に備えてボリュームのストレージ容量の割り当てをオンまたはオフにするための設定。割り当てをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します'割り当てを無効にするには'このパラメータをFALSEに設定します'
「ssid」	ボリュームのストレージアレイサブシステムの識別子。show volumeコマンドを使用して'ストレージ・アレイ・サブシステムの識別子を確認します'
「owner」をクリックします	ボリュームを所有するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです所有者を指定しない場合は、コントローラファームウェアによって所有者が決定されます。
「cacheReadPrefetch」というメッセージが表示されます	キャッシュ読み取りプリフェッチをオンまたはオフにする設定。キャッシュ読み取りプリフェッチをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します'キャッシュ読み取りプリフェッチをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します'
hostUnmapEnabled	このパラメータがTrueに設定されている場合'ホストはボリュームへの問題 UNMAPコマンドを許可されますUNMAPコマンドは、リソースプロビジョニングされたボリュームでのみ実行できます。
「ブロックサイズ」	この設定はボリュームのブロックサイズ (バイト) です。

## 注：

ストレージ管理ソフトウェアは、監視対象のストレージアレイのリカバリプロファイルを収集して、ストレージ

ジ管理ステーションにプロファイルを保存します。

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

'drive'パラメータまたは'drives'パラメータを使用してボリュームをリカバリしようとし'ドライブが未割り当て状態の場合'コントローラは自動的に新しいボリューム・グループを作成します新しいボリューム・グループの名前を指定するには'newVolumeGroup'パラメータを使用します

名前には、英数字、アンダースコア ( \_ )、ハイフン ( - )、シャープ ( # ) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

ownerパラメータは'ボリュームを所有するコントローラを定義しますボリュームの優先コントローラ所有者は、ボリュームグループを現在所有しているコントローラです。

## ストレージ容量を事前に割り当てます

dssPreAllocateパラメータを使用すると'ボリュームの再構築に使用される情報を格納するための容量をボリュームに割り当てることができますdssPreallocate'パラメータをtrueに設定すると'コントローラ・ファームウェアのストレージ・スペース割り当てロジックにより'将来のセグメント・サイズの変更に備えてボリューム内のスペースが事前に割り当てられます事前に割り当てられたスペースは、許容される最大セグメントサイズです。コントローラデータベースから取得できないボリューム構成を適切にリカバリするには'dssPreAllocate'パラメータが必要です事前割り当て機能をオフにするには'dssPreAllocate'を'FALSE'に設定します

## セグメントサイズ

コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータブロックの数は、セグメントのサイズによって決まります。各データブロックには512バイトのデータが格納されます。データブロックはストレージの最小単位です。セグメントのサイズによって、格納されるデータブロックの数が決まります。たとえば、8KBのセグメントには16個のデータブロックが含まれます。64KBのセグメントには128個のデータブロックが含まれます。

セグメントサイズの値を入力すると、その値は、実行時にコントローラで指定される、サポートされている値と照合されます。入力した値が無効な場合、コントローラは有効な値のリストを返します。1つの要求に対して1つのドライブを使用することで、他のドライブでは他の要求に同時に対応できます。

ボリュームが属している環境で、1人のユーザが大量のデータ（マルチメディアなど）を転送している場合は、1つのデータ転送要求を1つのデータストライプで処理すると、パフォーマンスが最大化されます。（データストライプはセグメントサイズであり、これに、データ転送に使用されるボリュームグループ内のドライブ数が掛けられます）。この場合、同じ要求に対して複数のドライブが使用されますが、各ドライブへのアクセスは1回だけとなります。

マルチユーザデータベースまたはファイルシステムのストレージ環境で最適なパフォーマンスを実現するには、データ転送要求を満たすために必要なドライブ数が最小限になるように、セグメントサイズを設定します。

## キャッシュ読み取りプリフェッチ

キャッシュ読み取りプリフェッチを使用すると、コントローラは、ホストによって要求されたデータブロックをディスクから読み取ってキャッシュにコピーすると同時に、追加のデータブロックをキャッシュにコピーできます。これにより、以降のデータ要求をキャッシュから処理できる可能性が高くなります。キャッシュ読み取りプリフェッチは、シーケンシャルデータ転送を使用するマルチメディアアプリケーションにとって重要です。使用するストレージレイの設定によって、コントローラがキャッシュに読み込む追加のデータブロックの数が決まります。「cacheReadPrefetch」パラメータの有効な値は「TRUE」または「FALSE」です。

## 最小ファームウェアレベル

5.43

7.10で、RAID 6レベル機能と「newVolumeGroup」パラメータが追加されました。

7.60で'drawerID'ユーザ入力が増加されました

7.75で'dataAssurance'パラメータが増加されました

8.78で'hostUnmapEnabled'パラメータが増加されました

11.70.1に'blocksize'パラメータが増加されました

## 同期ミラーリングリポジトリボリュームの再作成 - SANtricity CLI

recreate storageArray mirrorRepositoryコマンドは、以前のミラーリポジトリボリュームに定義されたパラメータを使用して、新しい同期ミラーリングリポジトリボリューム（ミラーリポジトリボリュームとも呼ばれます）を作成します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)



ファームウェアバージョン7.80では、recreate storageArray mirrorRepositoryコマンドは廃止されました。GUIまたはCLIでは、このコマンドはサポートされなくなりました。このコマンドを実行しようとする、この機能がサポートされなくなったこと、および指定したリモートミラーリポジトリに対する変更が行われないことを示すエラーメッセージが返されます。

前提として、ミラーリポジトリボリュームが以前に作成済みである必要があります。このコマンドでは、ユーザ定義のドライブ、ユーザ定義のボリュームグループ、またはユーザ定義のミラーリポジトリボリューム用ド

ドライブ数の3つのうちのいずれかを使用してミラーリポジトリボリュームを定義できます。ドライブ数の定義を選択する場合は、コントローラファームウェアによって、ミラーリポジトリボリュームに使用するドライブが選択されます。

## 構文 (ユーザ定義のドライブ)

```
recreate storageArray mirrorRepository
repositoryRAIDLevel=(1 | 3 | 5 | 6)
repositoryDrives=(<em>trayID1</em>,pass:quotes[ [<em>drawerID1,</em>] <em>slotID1</em>
... trayIDN</em>], [<em>drawerIDN,</em>] <em>slotIDN</em>)
[trayLossProtect=(TRUE | FALSE)]
[dataAssurance=(none | enabled)]
```

## 構文 (ユーザ定義のボリュームグループ)

```
recreate storageArray mirrorRepository
repositoryVolumeGroup=<em>volumeGroupName</em>
[freeCapacityArea=pass:quotes[<em>freeCapacityIndexNumber</em>]
```

## 構文 (ユーザ定義のドライブ数)

```
recreate storageArray mirrorRepository
repositoryRAIDLevel=(1 | 3 | 5 | 6)
repositoryDriveCount=<em>numberOfDrives</em>
(
  [driveMediaType=(HDD | SSD | unknown | allMedia)] |
  [driveType=(SAS | NVMe4K)]
)
[repositoryVolumeGroupUserLabel="userLabel"] |
[trayLossProtect=(TRUE | FALSE)] |
[drawingLossProtect=(true|false)] |
[dataAssurance=(none | enabled)]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
repositoryRAIDLevel	ミラーリポジトリボリュームのRAIDレベル。有効な値は'1'3'5'6'です

パラメータ	説明
repositoryDrives	<p>ミラーリポジトリボリュームに使用するドライブ。ドロワーIDの値は「1」～「5」です。スロットIDの値は'1'～'24'ですトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角カッコ（[]）で囲みます。以下のルールを使用して、リポジトリボリュームの名前を入力します。</p> <p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0'～'99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角カッコ（[]）で囲みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値はすべて角カッコ（[]）で囲みます。</li> <li>• トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値はカンマで区切ります。</li> <li>• ドライブの位置はスペースで区切ります。</li> </ul>
repositoryVolumeGroup'	ミラーリポジトリボリュームが配置されているボリュームグループの名前。
repositoryVolumeGroupUserLabel	ミラーリポジトリボリュームの配置先となる新しいボリュームグループに付ける名前。ボリュームグループ名は二重引用符（""）で囲みます。

パラメータ	説明
「freeCapacityArea」	<p>ミラーリポジトリボリュームの再作成に使用する、既存のボリュームグループ内の空きスペースのインデックス番号。空き容量は、ボリュームグループ内の既存のボリューム間の空き容量として定義されます。たとえば、ボリュームグループの領域が、ボリューム1、空き容量、ボリューム2、空き容量、ボリューム3、空き容量：ボリューム2の次の空き容量を使用するには、次のように指定します。</p> <div> <pre>freeCapacityArea=2</pre> </div> <p>show volume group コマンドを実行して'空き容量領域'が存在するかどうかを確認します</p>
repositoryDriveCount	ミラーリポジトリボリュームに使用する未割り当てのドライブの数。
driveMediaType	<p>情報を取得するドライブメディアのタイプ。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「hdd」は、ドライブトレイにハードディスクドライブがあることを示します</li> <li>「ssd」は、ドライブトレイにソリッドステート・ディスクがあることを示します</li> <li>「unknown」は、ドライブトレイ内のドライブメディアのタイプを確認できることを示します</li> <li>「allMedia」は、ドライブトレイ内にすべてのタイプのメディアがあることを示します</li> </ul>
「ドライブタイプ」	<p>ミラーリポジトリボリュームに使用するドライブのタイプ。ドライブタイプを混在させることはできません。</p> <p>ストレージレイ内に複数のドライブタイプがある場合は、このパラメータを使用する必要があります。</p> <p>有効なドライブタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「SAS」</li> <li>「NVMe4K」</li> </ul> <p>ドライブタイプを指定しない場合、このコマンドはデフォルトでany typeになります。</p>

パラメータ	説明
「trayLossProtect」	ミラーリポジトリボリュームを作成するときにトレイ損失の保護を有効にする設定。トレイ損失の保護を有効にするには、このパラメータをTRUEに設定します。デフォルト値はFALSEです。
「drawerLossProtect」	ミラーリポジトリボリュームを作成するときにドロワー損失の保護を有効にする設定。ドロワー損失の保護を有効にするには、このパラメータを「true」に設定します。デフォルト値はFALSEです。

## 注：

ミラーリポジトリボリュームのストレージスペースに対して入力した値が小さすぎると、ミラーリポジトリボリュームに必要なスペースの量を示すエラーメッセージがコントローラファームウェアから返されます。コマンドではミラーリポジトリボリュームの変更は試行されません。ミラーリポジトリボリュームのストレージスペースの値に関するエラーメッセージに記載されている値を使用して、コマンドを再入力できます。

repositoryDrivesパラメータでは、大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方がサポートされます。大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子（ID）、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

ドライブを割り当てるときに、trayLossProtectパラメータをTRUEに設定し、いずれか1つのトレイから複数のドライブを選択した場合、ストレージレイはエラーを返します。trayLossProtectパラメータをFALSEに設定すると、ストレージ・レイは操作を実行しますが、作成するミラー・リポジトリ・ボリュームにはトレイ損失の保護がない可能性があります。

コントローラファームウェアがドライブを割り当てるときに、trayLossProtectパラメータをTRUEに設定した場合、トレイ損失の保護を持つ新しいミラーリポジトリボリュームを構成するドライブをコントローラファームウェアが提供できない場合、ストレージレイはエラーを返します。trayLossProtectパラメータをFALSEに設定すると、ミラーリポジトリボリュームにトレイ損失の保護がない可能性がある場合でも、ストレージレイは処理を実行します。

## Data Assurance管理

Data Assurance（DA）機能を使用すると、ストレージシステム全体のデータの整合性が向上します。ホストとドライブの間でデータが移動されたときにストレージレイがエラーの有無をチェックします。この機能を有効にすると、ボリューム内の各データブロックに巡回冗長検査（CRC）と呼ばれるエラーチェック用のコードが付加されます。データブロックが移動されると、ストレージレイはこれらのCRCコードを使用して、転送中にエラーが発生したかどうかを判断します。破損している可能性があるデータはディスクに書き込まれず、ホストにも返されません。

DA機能を使用する場合は、まず最初にDAがサポートされているドライブのみを含むプールまたはボリュームグループを作成します。次に、DA対応ボリュームを作成します。最後に、DAに対応したI/Oインターフェイスを使用してDA対応ボリュームをホストにマッピングします。DAに対応したI/Oインターフェイスには、Fibre Channel、SAS、iSER over InfiniBand（iSCSI Extensions for RDMA/IB）があります。iSCSI over

EthernetやSRP over InfiniBandではDAはサポートされていません。



すべてのドライブがDA対応の場合は'dataAssurance'パラメータをEnabledに設定し'特定の操作でDAを使用できますたとえば、DA対応ドライブが含まれるボリュームグループを作成し、そのボリュームグループにDA対応のボリュームを作成できます。DA対応ボリュームを使用する他の処理には、DA機能をサポートするオプションがあります。

「dataAssurance」パラメータが「enabled」に設定されている場合、Data Assurance対応のドライブのみがボリューム候補とみなされます。それ以外の場合は、Data Assurance対応ドライブとData Assurance対応でないドライブの両方が考慮されます。DA対応ドライブのみが使用可能な場合、新しいボリュームグループは、有効なDA対応ドライブを使用して作成されます。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

7.10で、RAIDレベル6機能が追加されました

7.75で'dataAssurance'パラメータが追加されました

8.60で、「driveMediaType」、「repositoryVolumeGroupUserLabel」、「drawerLossProtect」パラメータが追加されました。

## 外部セキュリティキーの再作成 - SANtricity CLI

recreate storageArray securityKey' コマンドは'外部セキュリティキー管理機能で使用するストレージアレイのセキュリティキーを再生成します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

### 構文

```
recreate storageArray securityKey
passPhrase=<em>"passPhraseString"</em>
file="<em>fileName"</em>
[deleteOldKey=(TRUE | FALSE)]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
パスフレーズ	セキュリティキーを外部ファイルに格納できるように、セキュリティキーを暗号化する文字列。パスフレーズは二重引用符 ("" ) で囲みます。
'file'	<p>セキュリティキーを含むファイルパスとファイル名。例：</p> <pre>file="C:\Program Files\CLI\sup\drivesecurity.slk"</pre> <div>  <p>ファイル名の拡張子は「.slk」でなければなりません。</p> </div>
「deleteOldKey」と入力します	新しいセキュリティキーの作成後に外部キー管理サーバから古いセキュリティキーを削除するには、このパラメータを「true」に設定します。デフォルトは「FALSE」です。

## 注：

パスフレーズは次の条件を満たしている必要があります。

- パスフレーズは8~32文字で指定する必要があります。
- 大文字を1つ以上含む。
- 小文字を1つ以上含む。
- 数字を1つ以上含む。
- パスフレーズには、英数字以外の文字（<>@+など）が少なくとも1文字含まれている必要があります。



パスフレーズがこれらの条件を満たしていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

## 最小ファームウェアレベル

7.70

11.73では'deleteOldKey'パラメータが追加されました

## ディスクプールの容量を減らす - SANtricity CLI

set diskPool' コマンドは'プールからドライブを論理的に削除することにより'ディスク・プールの容量を削減します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

このコマンドでは、Dynamic Capacity Reduction (DCR) 機能を使用します。この機能により、選択したドライブをディスクプールから削除し、必要に応じてそのドライブを再利用できます。

1回のDCR処理でディスクプールから削除できる最大ドライブ数は60本です。ディスクプールの最小サイズを下回るサイズを指定することはできません。

### 構文

```
set diskPool [<em>diskPoolName</em>]
removeDrives=(<em>trayID1</em>, [<em>drawerID1</em>, ]<em>slotID1
... trayIDn</em>, [<em>drawerIDn</em>, ]<em>slotIDn</em>)
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	容量を削減するディスクプールの名前。ディスクプール名は角かっこ ([]) で囲みます。

パラメータ	説明
「removeDrives」を参照してください	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p>

## 注：

ディスクプール名は一意である必要があります。ユーザラベルには、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

グループを別途作成したり、不要な容量をストレージレイから削除したりする必要がある場合は、選択したドライブをディスクプールから削除できます。削除したドライブは未割り当てのドライブになり、ドライブ上のデータはディスクプール内の残りのドライブに再配置されます。ディスクプールの容量は、削除するドライブの容量分だけ縮小されます。ディスクプールからのドライブの削除は必ずバックグラウンドタスクとして実行され、処理中もボリュームは完全にアクセス可能な状態です。削除処理の進捗状況は、長時間の処理のステータスの一部として報告されます。

ディスクプールから削除するドライブ上のすべてのデータを格納するための空き容量がディスクプールに残っているドライブで十分に確保されていない場合、このコマンドは失敗します。ディスクプール内のリザーブ容量は、ディスクプールから削除するドライブ上のデータの格納に使用されることがあります。ただし、リザーブ容量が重大しきい値を下回ると、メジャーイベントログに重大イベントが書き込まれます。

ディスクプールのサイズを縮小すると、必要なリザーブ容量が少なくなる可能性があります。場合によっては、このコマンドが失敗する可能性を抑えるために、このコマンドを実行する前にリザーブ容量を削減し、ディスクプールのデータに使用できるスペースの量を増やしてください。

削除できるドライブ数はコントローラファームウェアで指定されます。削除するドライブはユーザが選択できます。コントローラファームウェアでは、再構築用にリザーブされた容量を消費せずに残りのドライブにデータを再分散するために必要な空きスペースの量に基づいてこのドライブ数を指定します。ディスクプールの空き容量がすでに再構築ドライブのリザーブ容量よりも少ない場合、コントローラはDCR処理の開始を許可しません。

DCR処理によって、設定された容量がプール利用率のしきい値の一方または両方を超える可能性があります。その場合は、通常のしきい値アラートが発行されます。

## 最小ファームウェアレベル

8.10で

# アレイラベルの削除 - SANtricity CLI

Remove array label'コマンドを使用すると'ストレージ・アレイのユーザー定義ラベルを削除できます

## サポートされているアレイ

このコマンドは、EF600およびEF300ストレージアレイを環境します。

## 構文

```
delete storageArrayLabel label <em>userDefinedString</em>
delete storageArrayLabel all
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「userDefinedString」	ストレージアレイのユーザ定義のラベルを指定できます。

## 最小ファームウェアレベル

8.60

# 非同期ミラーグループから不完全な非同期ミラーペアを削除する - SANtricity CLI

remove asyncMirrorGroupコマンドは'ストレージ・アレイ上の孤立したミラー・ペア・ボリュームを削除します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

孤立したミラーペアボリュームは、非同期ミラーグループの一方（プライマリまたはセカンダリ）で非同期ミラーグループのメンバーボリュームが削除され、もう一方では削除されていない場合に発生します。

孤立したミラーペアボリュームは、コントローラ間の通信がリストアされ、ミラー構成の両サイドでミラーパラメータが調整されたときに検出されます。

このコマンドは、ミラー関係がローカルストレージアレイまたはリモートストレージアレイで正常に削除されたにもかかわらず、通信の問題が原因で対応するストレージアレイでは削除できない場合に使用します。

## 構文

```
remove asyncMirrorGroup [<em>"asyncMirrorGroupName"</em>]  
incompleteMirror volume=<em>"volumeName"</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	孤立したボリュームを削除する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は、二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
「volume」	非同期ミラーグループから削除する孤立したボリュームの名前。ボリューム名は二重引用符（"）で囲みます。

## 最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

## SSD キャッシュからドライブを削除する - SANtricity CLI

set ssdCacheコマンドは、ソリッドステートディスク（SSD）を削除することにより、SSDキャッシュの容量を縮小します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

## 構文

```
set ssdCache [<em>ssdCacheName</em>]
removeDrives=(<em>trayID1</em>,[<em>drawerID1</em>,</em>]<em>slotID1 ...
trayIDn</em>,[<em>drawerIDn,</em>]<em>slotIDn</em>)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	SSDを削除するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角カッコ ([]) で囲みます。SSDキャッシュ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符 ("" ) で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「removeDrives」を参照してください	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角カッコ ([]) で囲みます。</p>

## 注：

このコマンドを使用して、SSDキャッシュからすべてのSSDを削除することはできません。少なくとも1本のSSDをSSDキャッシュに残しておく必要があります。SSDキャッシュを完全に削除する場合は、代わりに「delete ssdCache」コマンドを使用します。

## 最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

## ボリュームLUNマッピングの削除 - SANtricity CLI

remove lunMappingコマンドは1つ以上のボリュームから論理ユニット番号（LUN）またはネームスペースID（NSID）マッピングを削除します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 構文

```
remove (volume [<em>"volumeName"</em>] | accessVolume) lunMapping
(host=<em>"hostName"</em>" | hostGroup=(<em>"hostGroupName"</em> |
defaultGroup)
```

### 複数ボリュームのLUN / NSIDマッピングからLUN / NSIDマッピングを削除するための構文

```
remove (allVolumes | volumes [<em>volumeName1 ... volumeNameN</em>])
lunMapping
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	LUN / NSIDマッピングを削除するボリュームの名前。ボリューム名は、二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
「accessVolume」のようになります	このパラメータではアクセスボリュームが削除されます。
「allVolumes」	このパラメータでは、すべてのボリュームからLUNマッピングが削除されます。

パラメータ	説明
「ボリューム」	<p>LUN / NSIDマッピングを削除する複数のボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。</li> <li>• 名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul> <p>ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。</li> <li>• 各名前は二重引用符 (") で囲みます。</li> <li>• 名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul>
ホスト	<p>ボリュームのマッピング先であるホストの名前。ホスト名は二重引用符 (") で囲みます。</p> <p>このパラメータは、1個のボリュームからLUN / NSIDマッピングを削除する場合にのみ機能します。</p>
「hostGroup」と入力します	<p>ボリュームのマッピング先であるホストを含むホストグループの名前。ホストグループ名は二重引用符 (") で囲みます。defaultGroupの値は'ボリュームがマップされているホストを含むホスト・グループです'。</p> <p>このパラメータは、1個のボリュームからLUN / NSIDマッピングを削除する場合にのみ機能します。</p>

## 注：

アクセスボリュームは、ストレージ管理ソフトウェアとストレージアレイコントローラ間の通信に使用されるSAN環境内のボリュームです。アクセスボリュームがLUNアドレスまたはNSIDアドレスを使用し、アプリケーションデータストレージには使用できない20MBのストレージスペースを使用します。アクセスボリュームは、インバンド管理されるストレージアレイでのみ必要です。



アクセスボリュームを削除すると、構成が損傷する可能性があります。エージェントはアクセスボリュームを使用してストレージアレイと通信します。エージェントを実行しているホストからストレージアレイのアクセスボリュームのマッピングを削除すると、ストレージ管理ソフトウェアでエージェントを介してストレージアレイを管理できなくなります。

非アクセス・ボリュームまたはアクセス・ボリュームを指定する場合は'host'パラメータとhostGroupパラメータを使用する必要があります。「allVolumes」パラメータまたは「volumes」パラメータを使用する場合、スクリプトエンジンは「host」パラメータまたは「hostGroup」パラメータを無視します。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

# 整合性グループからメンバーボリュームを削除する - SANtricity CLI

set consistencyGroupコマンドは、既存のSnapshot整合性グループからメンバーボリュームを削除します。

## サポートされているアレ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

必要に応じて、整合性グループからリポジトリボリュームメンバーを削除できます。

## 構文

```
set consistencyGroup ["consistencyGroupName"]  
removeCGMemberVolume="memberVolumeName"  
[deleteRepositoryMembers=(TRUE | FALSE)]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「consistencyGroupName」	メンバーを削除する整合性グループの名前。整合性グループ名は、二重引用符 (") で囲んだ上で角っこ ([]) で囲みます。
「removeCGMemberVolume」	削除するメンバーボリュームの名前。メンバーグループ名は二重引用符 (") で囲みます。
deleteRepositoryMembersを指定します	整合性グループからすべてのリポジトリメンバーを削除するかどうかを指定します。

# ストレージアレイディレクトリサーバの役割マッピングを削除する - SANtricity CLI

「remove storageArray DirectoryServer」コマンドは、指定されたディレクトリサーバの定義済みのロールマッピングを削除します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## 構文

```
remove storageArray directoryServer [<em>domainId</em>]
    (allGroupDNs | groupDNs=(<em>groupDN1 ... groupDNN</em>))
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「DirectoryServer」を参照してください	ドメインIDを使用して、マッピングを削除するドメインを指定できます。
「allGroupDDN」	ドメインからすべてのグループの識別名のマッピングを削除できます。
「groupDND」	削除するグループの識別名（DN）を指定できます。 <div> 複数のグループを入力する場合は、値をスペースで区切ります。</div>

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "remove storageArray directoryServer ["domain1"]
                    groupDNs= ("CN=company-distlist,OU=Managed,
                               OU=MyCompanyGroups,DC=hq,DC=mycompany,DC=com");"

SMcli -n Array1 -c "remove storageArray directoryServer ["domain1"]
                    allGroupDNs;"

SMcli completed successfully.
```

## 同期ミラーリングの削除 - SANtricity CLI

remove SyncMirror コマンドは、リモート・ミラー・ペアのプライマリ・ボリュームとセカンダリ・ボリュームの間のミラー関係を削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり、SyncMirror に置き換えられます

構文

```
remove syncMirror (localVolume [<em>volumeName</em>] |
localVolumes [<em>volumeName1 ... volumeNameN</em>])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「localVolume」です	削除するプライマリボリューム（ローカルストレージアレイ上のボリューム）の名前。ボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ボリューム名を二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「localVolumes」を参照してください	<p>削除する複数のプライマリボリューム（ローカルストレージアレイ上のボリューム）の名前。以下のルールを使用して、プライマリボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。</li> <li>• 名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul> <p>プライマリボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。</li> <li>• 各名前は二重引用符（""）で囲みます。</li> <li>• 名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul>

## 最小ファームウェアレベル

6.10

## 非同期ミラーグループからボリュームを削除する - SANtricity CLI

remove volume asyncMirrorGroupコマンドは、既存の非同期ミラー・グループからメンバー・ボリュームを削除します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト（Context）

必要に応じて、非同期ミラーグループからリポジトリボリュームメンバーを削除できます。

このコマンドは、メンバーボリュームを削除する非同期ミラーグループを含むローカルストレージアレイでのみ有効です。

## 構文

```
remove volume [<em>"volumeName"</em>]  
asyncMirrorGroup=<em>"asyncMirrorGroupName"</em>  
[deleteRepositoryMembers=(TRUE | FALSE)]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「 volume 」	非同期ミラーグループから削除する特定のボリュームの名前。ボリューム名は、二重引用符 ("" ) で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「asyncMirrorGroup」	削除対象のメンバーボリュームを含む非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は二重引用符 ("" ) で囲みます。
deleteRepositoryMembersを指定します	非同期ミラーグループからすべてのリポジトリメンバーを削除するかどうかを指定します。

## 最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレのサポートが追加されました。

## ボリュームコピーの削除 - SANtricity CLI

'remove VolumeCopy target' コマンドは'ボリューム・コピー・ペアを削除します

### サポートされているアレ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

このコマンドは、Snapshotボリュームコピーペアに対して有効です。



ファームウェア・バージョン7.83では'copyType=(online | offline)パラメータは使用されなくなりました

## 構文

```
remove volumeCopy target [<em>targetName</em>] [source  
[<em>sourceName</em>]]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「target」と入力します	削除するターゲットボリュームの名前。ターゲットボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ターゲットボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ターゲットボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「source」を参照してください	削除するソースボリュームの名前。ソースボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ソースボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ソースボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

## 最小ファームウェアレベル

5.40

7.83で'copyType=(online | offline)パラメータが削除されました

## SSDキャッシュの名前変更 - SANtricity CLI

set ssdCacheコマンドは、SSDキャッシュの名前を変更します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

## 構文

```
set ssdCache [<em>old_ssdCacheName</em>]  
userLabel=<em>"new_ssdCacheName</em>"
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	名前を変更するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角かっこ ([]) で囲みます。SSDキャッシュ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符 ("" ) で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「userLabel」 のように入力します	SSDキャッシュの新しい名前。名前は二重引用符 ("" ) で囲みます。識別子には、英数字、アンダースコア ( _ ) 、ハイフン ( - ) 、ポンド ( # ) の任意の組み合わせを使用できます。識別子の最大文字数は30文字です。

## 最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

## データパリティの修復 - SANtricity CLI

データパリティの修復コマンドは'データパリティエラーを修復します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

このコマンドを使用する前に、ネットアップサポートに問い合わせ、影響を受けるファームウェア、ドライブ、RAIDストライプに関するガイダンスを確認してください。

## 構文

```
repair volume[volumeName] parity
    [startingLBA=LBAvalue]
    [endingLBA=LBAvalue]
    [repairMethods=(repairMethod . . . repairMethod)]
        Space delimited list where possible repair methods are:
reconstruct, unmap, updateP, updateQ, updateData, and writeZeros
    [repairPI=(TRUE|FALSE)]
    [suspectDrives=(trayID1,[drawerID1,]slotID1 . . .
trayIDn,[drawerIDn,]slotIDn)]
    [timeout=(0-65535)]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	パリティを修復するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこで囲みます ([])。
「StartingLBA」	論理ブロックの開始アドレス。
「endinglba」	論理ブロックの終了アドレス。
「修繕の神」	<p>パリティエラーを修復する方法。使用可能な方法は次のとおりです</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• reconstruct：「suspectDrives」パラメータで指定されたドライブを再構築します。</li><li>• UNMAP：R5/R6 dribeボリュームで、R5/R6 RAIDストライプをマッピング解除する場合に使用します</li><li>• updateP：データパリティの不一致タイプを修正するために使用します。</li><li>• updateQ：データパリティの不一致タイプを修正するために使用します。</li><li>• updateData：データパリティの不一致タイプを修正するために使用します。</li><li>• writeZeros：R5/R6 drbeボリュームで、マッピングされたデータとマッピングされていないデータが混在する予期しないRAID 5 / 6ストライプが検出された場合に使用します。ストライプ内のマッピングされていないブロックを取得し、ゼロを書き込むと、パリティを更新します</li></ul>

パラメータ	説明
「修繕PI」	StartingLBAで始まるエクステント内のPIを修復するには、trueに設定します。
「サスペンス・ドライブ」	再構築するドライブを指定します。
タイムアウト	処理を実行する時間（分）。

## 最小ファームウェアレベル

8.63

## ボリュームパリティの修復 - SANtricity CLI

「ボリュームパリティの修復」コマンドは、ボリューム上のパリティエラーを修復します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト（Context）



ボリュームのパリティとボリュームのデータが一致しない場合は、ボリュームのパリティではなくボリュームのデータが破損している可能性があります。ボリュームのパリティを修復すると、必要に応じて、破損したボリュームのデータを修復する機能が削除されます。

### 構文

```
repair volume [<em>volumeName</em>] parity
parityErrorFile=<em>"filename"</em>
[verbose=(TRUE | FALSE)]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「 volume 」	パリティを修復するボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 ("" ) で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
'parityErrorFile'	<p>エラーの修復に使用するパリティエラー情報を含むファイルのパスと名前。ファイル名は二重引用符 ("" ) で囲みます。例：</p> <pre>'file="C:\Program Files\CLI\sup\parfile.txt'</pre> <div>  <p>「parityErrorFile」は、以前の「ボリュームのパリティをチェック」操作の結果です。</p> </div>
「冗長」	完了した割合などの進捗状況の詳細をキャプチャするための設定。ボリュームのパリティを修復する際の情報を表示するために使用します。進行状況の詳細をキャプチャするには、このパラメータを「true」に設定します。進行状況の詳細をキャプチャしないようにするには、このパラメータをFALSEに設定します。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

## ドライブの交換 - SANtricity CLI

Replace drive replacementDriveコマンドを実行すると、ボリューム・グループ内のドライブが置き換えられます。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

ボリュームグループのドライブを交換すると、ボリュームグループの構成が再定義されます。このコマンドを

使用して、ドライブを未割り当てのドライブまたは完全に統合されたホットスペアと交換できます。

## 構文

```
replace (drive \[trayID,[drawerID,]slotID\] \\  
drives\[trayID1,[drawerID1,]slotID1 ... trayIDn,[drawerIDn,]slotIDn\  
| <"wwID">)  
replacementDrive=trayID,drawerID,slotID  
[copyDrive][failDrive]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角カッコ ([]) で囲みます。</p>
「ドライブ」	交換するドライブのWorld Wide Identifier (WWID)。WWIDは二重引用符 (") で囲んだ上で山カッコ (<>) で囲みます。
「replacementDrive」を参照してください	交換用として使用するドライブの場所。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。スロットIDの値は'1～24'です

## 注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへ

のアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子（ID）、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

### 最小ファームウェアレベル

7.10

7.60で'drawerID'ユーザー入力が追加されました

## インストールされた署名済み証明書をリセットする - SANtricity CLI

reset controller arrayManagementSignedCertificateコマンドは、コントローラにインストールされた署名済み証明書とルート/中間証明書をリセットします。すべてのルート証明書と中間証明書、および署名済み証明書は、1つの自己署名証明書に置き換えられます。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

### 構文

```
reset controller [(a|b)] arrayManagementSignedCertificate
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	ルート/中間証明書を取得するコントローラをユーザが指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。

### 例

```
SMcli -n Array1 -c "reset controller [a]
arrayManagementSignedCertificate;"

SMcli completed successfully.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.40

## コントローラのリセット - SANtricity CLI

reset controller コマンドは、コントローラをリセットし、I/O処理を中断します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)



リセットしたコントローラはデータパスから削除され、リセット処理が完了するまでI/O処理に使用できません。リセット対象のコントローラが所有するボリュームをホストが使用している場合は、そのコントローラに対するI/Oが拒否されます。コントローラをリセットする前に、コントローラが所有するボリュームが使用中でないこと、またはそれらのボリュームを使用するすべてのホストにマルチパスドライバがインストールされていることを確認してください。



インバンド管理を使用する場合は、どのコントローラにコマンドを送信するかを制御できず、このコマンドから予期しない結果が返されることがあります。

### 構文

```
reset controller [(a|b)]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	リセットするコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みません。コントローラを指定しないと、ストレージ管理ソフトウェアから構文エラーが返されます。

## 注：

reset controllerコマンドを受信するコントローラによって、指定されたコントローラがリセットされます。たとえば、コントローラAのリセットを要求するreset controllerコマンドがコントローラAに送信される場合は、ソフトリブートを実行してコントローラAがリブートされます。コントローラBのリセットを要求するreset controllerコマンドがコントローラAに送信される場合は、コントローラAがコントローラBをリセットに保持し、その後リセットからコントローラBを解放します。これはハードリブートです。一部の製品のソフトリブートでは、IOCチップだけがリセットされます。ハードリブートでは、コントローラのIOCチップとエキスパンダチップの両方がリセットされます。

## 最小ファームウェアレベル

5.20

## ドライブのリセット - SANtricity CLI

reset driveコマンドは'ボリューム・グループまたはディスク・プール内のドライブの電源を再投入して'動作に一貫性がないドライブまたは最適でないドライブのリカバリを支援します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

ドライブの電源を再投入することで、原因の一貫性がない動作または最適でない動作に関する一部のエラーを解消できます。これにより、重大でない一時的なエラーがドライブで発生し、ドライブが引き続き動作している場合に、ドライブの交換を回避できます。この方法でドライブをリセットすると、システムの停止が軽減され、ドライブの交換を回避できます。

ドライブの電源を再投入することで問題を解決できない場合は、ドライブのデータがコピーされ、ドライブの交換のために電源がオフになります。



Pliant製のSSDドライブにこのコマンドを使用することはできません。ドライブの製造元を表示するには、「show storageArray profile」コマンドまたは「show drive」コマンドを使用します。

## 構文

```
reset drive([trayID,[drawerID],[slotID] | <"wwID">)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角カッコ ([]) で囲みます。</p>
「ドライブ」	<p>交換するドライブのWorld Wide Identifier (WWID)。WWIDは二重引用符 ("" ) で囲んだ上で山カッコ (&lt;&gt;) で囲みます。</p>

## 注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

ドライブの電源を再投入したら、そのドライブを使用可能な状態に戻す前に、ドライブが動作していることをコントローラで確認する必要があります。検証できないドライブは、障害が発生したドライブとしてマークされます。障害が発生したドライブの電源を再投入するには、グローバルホットスペアドライブが必要です。また、ドライブが使用可能な状態になったら、交換用ドライブへのフルコピーが必要です。

24時間以内に2回以上電源を再投入して、障害が発生したドライブをリセットすることはできません。状況によっては、障害が発生したドライブを2回以上リセットできない場合もあります。ドライブの電源の再投入のしきい値とカウンタは永続的ストレージに保持され、状態キャプチャデータに含まれます。ドライブの電源を再投入すると、情報イベントがログに記録されます。

## 最小ファームウェアレベル

8.20で

## iSCSI IPアドレスのリセット - SANtricity CLI

`reset iscsilpAddress` コマンドは、リモートストレージアレイのIPアドレスをリセットして、ローカルストレージアレイとの接続を再確立します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、一部制限付きで個々のストレージアレイを環境に接続します。E2700またはE5600のアレイに対して実行する場合は、制限はありません。



このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、およびEF300のプラットフォームではサポートされていません。

### ロール

該当なし

### コンテキスト (Context)

このコマンドを使用して、リモートストレージアレイのiSCSI IPアドレスが変更されたこと、および更新が必要であることをローカルストレージアレイに通知できます。

iSCSI接続と非同期ミラーリング関係を確立する際、ローカルおよびリモート両方のストレージアレイは、リモートストレージアレイのIPアドレスを非同期ミラーリング構成に保存します。iSCSIポートのIPアドレスが変わると、そのポートを使用しようとしているリモートストレージアレイで通信エラーが発生します。

IPアドレスが変更されたストレージアレイは、iSCSI接続を介してミラーリングするように設定された非同期ミラーグループに関連付けられている各リモートストレージアレイにメッセージを送信します。このメッセージを受け取ったストレージアレイは、リモートターゲットのIPアドレスを自動的に更新します。

IPアドレスが変更されたストレージアレイがコントローラ間のメッセージをリモートストレージアレイに送信できない場合は、接続問題のアラートが送信されます。ローカル・ストレージ・アレイとの接続を再確立するには `reset` コマンドを使用します

### 構文

```
reset (remoteStorageArrayName="storageArrayName" |
remoteStorageArrayWwid=<wwID>)
iscsiIpAddress
```

## パラメータ

パラメータ	説明
remoteStorageArrayName	iSCSI IPアドレスをリセットするリモートストレージアレイの名前。ストレージアレイ名は二重引用符（""）で囲みます。
remoteStorageArrayWwid	iSCSI IPアドレスをリセットするストレージアレイのWorld Wide Identifier（WWID）。ストレージアレイ名の代わりにWWIDを使用してストレージアレイを識別できます。WWIDは山かっこ（<>）で囲みます。

## 最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

## 非同期ミラーグループの統計をリセットする - SANtricity CLI

「reset storageArray arvmStats asyncMirrorGroup」コマンドは、非同期ミラーグループ内の1つ以上のメンバーボリュームの同期統計を相対0にリセットします。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 構文

```
reset storageArray arvmStats asyncMirrorGroup
[<em>asyncMirrorGroupName</em>]
volume=<em>"volumeName"</em> sampleType=(all | mostRecent |
longestSyncTime | errors)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	同期の統計をリセットする非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、非同期ミラーグループ名を二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「volume」	<p>このパラメータはオプションです。同期の統計をリセットする非同期ミラーグループ内の特定のメンバーボリュームの名前。ボリュームを指定しない場合は、非同期ミラーグループ内のすべてのメンバーボリュームの統計がリセットされます。</p> <p>ボリューム名は二重引用符（"）で囲みます。</p>
「sampleType」	<p>このパラメータはオプションです。「sampleType」のデフォルト値は「all」です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• all — 3つのサンプルタイプすべてのデータがリセットされます</li><li>• 「mostrecent」 --最新の50件の再同期サンプルの統計がリセットされます。</li><li>• longestSyncTime'--最新の20件の最も長い再同期サンプルの統計情報がリセットされます</li><li>• errors--最新の20個の失敗した再同期サンプルの統計情報がリセットされます</li></ul>

### 注：

Primaryロールでは、ミラーボリュームの統計がリセットされます。リセットされる統計には次のデータが含まれます。

- 同期の開始時刻
- 同期タイプ（手動または定期的）
- 同期の期間
- 送信バイト数
- 最大および最小の書き込み時間（単一の書き込みの場合）
- 最大および最小の同期データ速度
- 合計書き込み時間
- リポジトリの使用率(%)
- リカバリポイントの経過時間

## 最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

## AutoSupport メッセージ収集スケジュールをリセットする - SANtricity CLI

reset storageArray autoschedule' AutoSupport コマンドは、AutoSupport メッセージが管理ソフトウェアによって生成されたランダムな値に送信される毎日および毎週の時間と曜日をリセットします。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

- 管理ソフトウェアは、日単位と週単位のメッセージに関しては時刻を、週単位のメッセージに関しては曜日を、ランダムに選択します。
- 管理ソフトウェアは、1つの管理ドメイン内の2つのストレージアレイがスケジュールされたAutoSupport メッセージを同時に送信しないように対処します。

### 構文

```
reset storageArray autoSupport schedule
```

### パラメータ

なし

### 例

```
SMcli -n Array1 -c "reset storageArray autoSupport schedule;"
```

```
SMcli completed successfully.
```

## 検証

スケジュールの変更結果を確認するには、「show storageArray autoSupport AutoSupport」コマンドを使用します。

## 最小ファームウェアレベル

8.40

# ストレージアレイ診断データをリセットする - SANtricity CLI

reset storageArray diagnosticData コマンドは、ストレージ・アレイの診断データを含む NVSRAM をリセットします。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべての SMcli パッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300 を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドを E4000、E2800、E5700、EF600、または EF300 のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin ロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

このコマンドでは診断データは削除されません。このコマンドは、要注意ステータスを Diagnostic Data Available ステータスに置き換えます。古い診断データは、新しいデータがキャプチャされると自動的に上書きされます。診断データを格納するメモリも、コントローラのリブート時にクリアされます。診断データをリセットする前に、「save storageArray diagnosticData」コマンドを使用して診断データをファイルに保存します。



このコマンドは、テクニカルサポートの助言の下で実行してください。

## 構文

```
reset storageArray diagnosticData
```

## パラメータ

なし

## 最小ファームウェアレベル

6.16

# ストレージアレイのホストポート統計のベースラインをリセットする - SANtricity CLI

reset storageArray hostPortStatisticsBaseline コマンドは、ストレージアレイのホストポートの統計ベースラインをリセットします。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

## コンテキスト (Context)



このコマンドは、廃止されたを置き換えます [ストレージアレイのInfiniBandの統計ベースラインをリセットします](#)、[ストレージアレイのiSCSIベースラインをリセットします](#)および [ストレージアレイのiSERベースラインをリセットします](#) コマンド

## 構文

```
reset storageArray hostPortStatisticsBaseline type=(ISCSI| ISER | SRP | NVMEOF)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「type」と入力します	収集する統計のタイプを指定できます。有効な選択肢は、「iscsi」、「isER」、「srp」、「NVMEOF」です。

## 最小ファームウェアレベル

8.41

# ストレージアレイのInfiniBand統計ベースラインをリセットする - SANtricity CLI

reset storageArray ibStatsBaseline コマンドは、ストレージアレイのInfiniBand統計ベースラインを0にリセットします。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [ストレージアレイのホストポート統計のベースラインをリセットします](#) コマンドを実行します

## 構文

```
reset storageArray ibStatsBaseline
```

## パラメータ

なし

## 注：

このコマンドは、ハードウェアとファームウェアで維持される生の数を実際にリセットするわけではありません。代わりに、ファームウェアは現在のカウンタ値のSnapshotを作成し、これらの値を使用して、統計が取得されるときに数の違いを報告します。新しいベースライン時間は両方のコントローラに適用されるため、コントローラの数が相互に同期されます。一方のコントローラがリセットされ、もう一方のコントローラがリセットされない場合は、カウンタが同期されなくなります。統計とともに報告されるタイムスタンプデータが両方のコントローラで異なるため、クライアントはコントローラが同期されていないことを認識します。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

8.41で、このコマンドは廃止されました。

## ストレージアレイの iSCSI ベースラインをリセットする - SANtricity CLI

「reset storageArray iscsiStatsBaseline」コマンドは、ストレージアレイのiSCSIベースラインを0にリセットします。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [ストレージアレイのホストポート統計のベースラインをリセットします](#) コマンドを実行します

## 構文

```
reset storageArray iscsiStatsBaseline
```

## パラメータ

なし

## 注：

このコマンドは、ストレージアレイ内の両方のコントローラのベースラインを0にリセットします。両方のコントローラのベースラインをリセットする目的は、コントローラの数でコントローラ間で同期することです。1台目のコントローラがリセットされ、2台目のコントローラがリセットされない場合は、コントローラが同期していないことがホストに通知されます。ホストには、統計とともに報告されるタイムスタンプが通知されます。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

8.41で、このコマンドは廃止されました。

## ストレージアレイの iSER ベースラインをリセットする - SANtricity CLI

reset storageArray iserStatsBaseline コマンドは、ストレージアレイのiSERベースラインを0にリセットします。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [ストレージアレイのホストポート統計のベースラインをリセットします](#) コマンドを実行します

## 構文

```
reset storageArray iserStatsBaseline
```

## パラメータ

なし

## 注：

このコマンドは、ハードウェアとファームウェアで維持される生の数を実際にリセットするわけではありません。代わりに、ファームウェアは現在のカウンタ値のSnapshotを作成し、これらの値を使用して、統計が取得されるときに数の違いを報告します。新しいベースライン時間は両方のコントローラに適用されるため、コントローラの数が相互に同期されます。一方のコントローラがリセットされ、もう一方のコントローラがリセットされない場合は、カウンタが同期されなくなります。統計とともに報告されるタイムスタンプデータが両方のコントローラで異なるため、クライアントはコントローラが同期されていないことを認識します。

## 最小ファームウェアレベル

8.20で

8.41で、このコマンドは廃止されました。

# ストレージアレイのRLSベースラインをリセットする - SANtricity CLI

すべてのRLSのカウントを0に設定すると、「reset storageArray RLSBaseline」コマンドは、すべてのデバイスのRead Link Status (RLS) ベースラインをリセットします。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
reset storageArray RLSBaseline
```

## パラメータ

なし

## 最小ファームウェアレベル

5.00

# ストレージアレイの **SAS PHY** ベースラインをリセットする - **SANtricity CLI**

reset storageArray SASSPHYBaseline' コマンドは'すべてのデバイスのSAS物理層 (SAS PHY) ベースラインをリセットし'.csvファイルからエラーのリストを削除します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (**Context**)

「save storageArray SASSPHYCounts」 コマンドを実行すると、「.csv」ファイルが生成されます。



以前のリリースのreset storageArray SASSPHYBaseline' コマンドでは'ドライブを除くすべてのデバイスのエラー数がクリアされていましたこれで'reset storageArray SASSPHYBaseline' コマンドは'ドライブおよびその他のデバイスのSAS PHYベースラインをリセットするようになりましたすべてのエラーは'.csvファイルから削除されます

## 構文

```
reset storageArray SASPHYBaseline
```

## パラメータ

なし

## 最小ファームウェアレベル

6.10

7.83で、ドライブのSAS PHYベースラインがリセットされました。

## ストレージアレイの **SOC** ベースラインをリセットする - **SANtricity CLI**

reset storageArray SOCBaseline'コマンドは、コントローラを介してアクセスされるすべてのSwitch-On-a-Chip (SOC) デバイスのベースラインをリセットします。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (**Context**)

このコマンドは、すべてのSOCの数を0に設定することで、ベースラインをリセットします。このコマンドは、アービトレーテッドループトポロジ内のFibre Channelデバイスに対してのみ有効です。

### 構文

```
reset storageArray SOCBaseline
```

### パラメータ

なし

## 最小ファームウェアレベル

6.16

## ストレージアレイのボリューム配分をリセットする - **SANtricity CLI**

reset storageArray volumeDistributionコマンドは、すべてのボリュームを優先コントローラに再割り当て（移動）します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
reset storageArray volumeDistribution
```

## パラメータ

なし

## 注：

マルチパスドライバがインストールされていないホストでこのコマンドを使用する場合は、アプリケーションエラーを回避するために、このコマンドが完了するまでボリュームへのI/O処理を停止する必要があります。

特定のホストオペレーティングシステム環境では、マルチパスホストドライバの再設定が必要になる場合があります。また、オペレーティングシステムに対する変更を行って、ボリュームの新しいI/Oパスを認識させることが必要になる場合もあります。

## 最小ファームウェアレベル

5.20

# 非同期ミラーグループの再開 - SANtricity CLI

resume asyncMirrorGroupコマンドは非同期ミラーグループ内のすべてのミラーペア間のデータ転送を再開します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

非同期ミラーグループを中断している間にプライマリボリュームに書き込まれたデータが、セカンダリボリュームにただちに書き込まれます。自動同期間隔が設定されている場合は、定期的な同期が再開されます。

## 構文

```
resume asyncMirrorGroup [<em>"asyncMirrorGroupName"</em>]  
[deleteRecoveryPointIfNecessary]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	同期を開始する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は、二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
「deleteRecoveryPointIfNecessary」です	リカバリ可能な同期データがリカバリの時間のしきい値を超えた場合にリカバリポイントを削除するためのパラメータ。リカバリポイントの経過時間は、プライマリストレージアレイでデータが取得された時間から計測されます。

## 最小ファームウェアレベル

7.84

8.10で、deleteRecoveryPointIfNecessary パラメータ

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

## 整合性グループスナップショットボリュームの再開 - SANtricity CLI

「stop cgSnapVolume」コマンドを使用して停止した整合性グループのSnapshotボリュームを作成するためのcopy-on-write処理を再開するには、「resume cgSnapVolume」コマンドを使用します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
resume cgSnapVolume [<em>"snapVolumeName"</em>]  
cgSnapImage=<em>"snapImageName"</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
cgSnapVolume	再開する整合性グループのSnapshotボリュームの名前。整合性グループのSnapshotボリュームの名前は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
「cgSnapImage」をクリックします	<p>再開する整合性グループ内のSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 整合グループの名前</li><li>• 整合性グループ内のSnapshotイメージの識別子</li></ul> <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 整合性グループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。</li><li>• 'new'-整合性グループに作成された最新のSnapshotイメージを表示する場合は、このオプションを使用します。</li><li>• oldest -整合性グループに作成された最も古いSnapshotイメージを表示する場合は、このオプションを使用します。</li></ul> <p>Snapshotイメージ名は二重引用符（""）で囲みます。</p>

### 注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン（:）で区切られています。

- 整合性グループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、snapVol1という名前の整合性グループのSnapshotボリュームにあるSnapshot整合性グループsnap group1で、Snapshotイメージ12345のcopy-on-write処理を再開する場合は、次のコマンドを使用します。

```
resume cgSnapVolume ["snapVol1"] cgSnapImage=["snapgroup1:12345"]
```

## 最小ファームウェアレベル

7.83

# スナップショットイメージのロールバックを再開する - SANtricity CLI

RESUME SnapImage rollbackコマンドは、一時停止状態になったロールバック・オペレーションを再開します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

処理のエラーが原因で、ロールバック処理が一時停止状態になることがあります。これにより、ストレージアレイの要注意状態が発生します。

ロールバック処理を再開できない場合は、選択したSnapshotイメージが一時停止状態に戻り、要注意状態が表示されます。



オンラインボリュームコピーに関与するSnapshotイメージには、このコマンドは使用できません。

## 構文

```
resume snapImage [<em>snapImageName</em>] rollback
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「SnapImage」	<p>ロールバック処理を再開するSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Snapshotグループの名前</li> <li>• Snapshotグループ内のSnapshotイメージの識別子</li> </ul> <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Snapshotグループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。</li> <li>• 最新-スナップショット・グループで作成された最新のスナップショット・イメージを表示する場合にこのオプションを使用します</li> <li>• oldest - Snapshotグループに作成された最も古いSnapshotイメージを表示する場合は、このオプションを使用します。</li> </ul> <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符 ("" ) で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p>

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン (:) で区切られています。

- Snapshotグループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、snapgroup1という名前のSnapshotグループ内にあるSnapshotイメージ12345のロールバック処理を再開する場合は、次のコマンドを使用します。

```
resume snapImage ["snapgroup1:12345"] rollback;
```

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## スナップショットボリュームの再開 - SANtricity CLI

RESUME SnapVolume' コマンドは'停止したスナップショット・ボリューム操作を再開します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
resume snapVolume [<em>"snapVolumeName"</em>]  
snapImage=<em>"snapCGID:imageID"</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	処理を再開するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリューム名は、二重引用符 ("" ) で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「SnapImage」	<p>Snapshotボリュームの処理を再開するSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Snapshotグループの名前</li><li>• Snapshotグループ内のSnapshotイメージの識別子</li></ul> <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Snapshotグループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。</li><li>• 最新-スナップショット・グループで作成された最新のスナップショット・イメージを表示する場合に'このオプションを使用します</li><li>• oldest - Snapshotグループに作成された最も古いSnapshotイメージを表示する場合は、このオプションを使用します。</li></ul> <p>Snapshotイメージ名は二重引用符 ("" ) で囲みます。</p>

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン（:）で区切られています。

- Snapshotグループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、snapGroup1という名前のSnapshotグループ内にあるSnapshotイメージ12345のSnapshotボリュームの処理を再開する場合は、次のコマンドを使用します。

```
resume snapVolume ["snapVol1"] snapImage="snapGroup1:12345";
```

snapGroup1という名前のSnapshotグループ内にある最新のSnapshotイメージに対するSnapshotボリュームの処理を再開するには、次のコマンドを使用します。

```
resume snapVolume ["snapVol1"] snapImage="snapGroup1:newest";
```

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## SSDキャッシュを再開 - SANtricity CLI

RESUME ssdCacheコマンドは'suspend ssdCacheコマンドで一時的に停止したSSDキャッシュを使用して'すべてのボリュームのキャッシュを再起動します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

### 構文

```
resume ssdCache [<em>ssdCacheName</em>]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	キャッシュ処理を再開するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角カッコ（[]）で囲みます。SSDキャッシュ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符（""）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

## 最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

## 同期ミラーリングの再開 - SANtricity CLI

RESUME SyncMirror コマンドは中断された同期ミラーリング操作を再開します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト（Context）



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり' SyncMirror に置き換えられます

### 構文

```
resume syncMirror (primary [<em>volumeName</em>] |
primaries [<em>volumeName1 ... volumeNameN</em>])
[writeConsistency=(TRUE | FALSE)]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「プライマリ」	同期ミラーリング処理を再開するプライマリボリュームの名前。プライマリボリューム名は角カッコ（[]）で囲みます。プライマリボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、プライマリボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「原色」	<p>同期ミラーリング処理を再開する複数のプライマリボリュームの名前。以下のルールを使用して、プライマリボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。</li> <li>• 名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul> <p>プライマリボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。</li> <li>• 各名前は二重引用符（""）で囲みます。</li> <li>• 名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul>
「ライトコンシステンシ」	書き込み整合性グループ内のボリュームまたは分離されているボリュームをこのコマンドで特定するための設定。同一の書き込み整合性グループに属するボリュームの場合は、このパラメータを「true」に設定します。別のボリュームの場合は、このパラメータを「FALSE」に設定します。

## 注：

「writeConsistency」パラメータを「true」に設定すると、ボリュームは書き込み整合性グループ（またはグループ）に属している必要があります。このコマンドは、ボリュームを含むすべての書き込み整合性グループの同期ミラーリングを再開します。たとえば、ボリュームA、B、Cが書き込み整合性グループに属しており、リモートに対応するA'、B'、およびC'がある場合、SyncMirror ボリュームの再開["A"] writeConsistency=true コマンドはA-A'、B-B'、C-C'を再開します。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

## ドライブの復活 - SANtricity CLI

revive drive コマンドは指定されたドライブを強制的に最適状態にします

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)



データアクセスが失われる可能性-このコマンドの正しい使用法は、ボリュームグループ内のすべてのドライブのデータ構成によって異なります。テクニカルサポートの指示がない限り、ドライブの再活性化を試行しないでください。

## 構文

```
revive drive [<em>trayID</em>, [<em>drawerID,</em>] <em>slotID</em>]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>

## 注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要

があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

### 最小ファームウェアレベル

5.43

7.60で'drawerID'ユーザ入力が増加されました

## スナップショットグループの復活 - SANtricity CLI

[revive SnapGroup]コマンドは指定したスナップショット・グループを強制的に最適状態にします

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

Snapshotグループが失敗状態でない場合はエラーメッセージが表示され、このコマンドは実行されません。

### 構文

```
revive snapGroup [<em>snapGroupName</em>]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	最適状態に設定するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は角カッコ ([]) で囲みます。Snapshotグループ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、Snapshotグループ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

### 注：

名前には、英数字、アンダースコア ( \_ ) 、ハイフン ( - ) 、シャープ ( # ) を任意に組み合わせて使用できま

す。名前の最大文字数は30文字です。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

# スナップショットボリュームの復活 - SANtricity CLI

「revive SnapVolume」コマンドは、指定されたスナップショットボリュームを強制的に最適状態にします。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

Snapshotボリュームは次のいずれかです。

- スタンドアロンのSnapshotボリューム
- 整合性グループのメンバーであるSnapshotボリューム

Snapshotボリュームが失敗状態でない場合はエラーメッセージが表示され、このコマンドは実行されません。



オンラインボリュームコピーで使用されているSnapshotボリュームには、このコマンドは使用できません。

## 構文

```
revive snapVolume [<em>snapVolumeName</em>]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	最適状態に設定するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。Snapshotボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、Snapshotボリューム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

## 注：

名前には、英数字、アンダースコア ( \_ ) 、ハイフン ( - ) 、シャープ ( # ) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

# ボリュームグループの復活 - SANtricity CLI

「revive volumegroup」コマンドは、指定されたボリュームグループとその関連する障害が発生したドライブを強制的に最適な状態に設定します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)



データアクセスが失われる可能性-このコマンドの正しい使用方法は、ボリュームグループ内のすべてのドライブのデータ構成によって異なります。テクニカルサポートの指示がないかぎり、ドライブの再活性化を試行しないでください。

## 構文

```
revive volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	最適状態に設定するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。